

課題名	30 一、二年生花きの生育・開花調節	分類	①
	マトリカリアの播種期と促成栽培法		
試験研究年次	1～2年(完了)		
I 目的 マトリカリアの播種期と日長及び苗低温処理による生育開花の促進効果を明らかにし、作期の拡大を図るとともに栽培技術を確立する。			
II 試験方法			
1 供試品種	セルマテトラ(白色)		
2 試験区の構成			
試験Ⅰ 播種期	4月～3月まで毎月1回播種		
試験Ⅱ 日長処理	①無処理(自然日長) ②長日処理(電照)		
試験Ⅲ 苗低温処理	①無処理 ②2.5℃20日間処理 ③2.5℃20日間+長日処理(電照)		
3 試験規模	1区	20株	
4 耕種概要			
(1) 播種時期	試験Ⅱ: 1年8月9日、9月10日、10月10日、11月10日(4回) 試験Ⅲ: 2年5月20日、6月10日、7月10日、(3回)		
(2) 日長処理開始時期	1年8月20日(試験Ⅱ)、2年8月25日(試験Ⅲ) 深夜3時間の暗期中断処理を開花まで		
(3) 低温処理時の苗の大きさ	展開葉数8枚		
(4) 定植方法	プランター(70×20×25cm)に8株植え		
(5) 加温開始時期	1年11月25日 最低夜温12℃(試験Ⅰ、Ⅱ) 2年10月28日 " 10℃(試験Ⅲ)		
III 主要成果の概要			
マトリカリアを促成栽培する場合の播種時期は9～10月が良い。また、加温と電照を併用すると開花株率が高くなり、3月下旬から切花長の長い高品質の切花が採花できる。			
1 マトリカリアは秋播きして無加温で栽培すると6～7月に開花するが、9～10月に播種を行って11月下旬から最低夜温12℃で加温する促成栽培では4～5月に高品質の切花が採花できる。			
2 3～5月の春播き栽培では無加温で6～8月に採花できるが、切花長が短くなり品質が著しく低下する。			
3 電照は開花株率の向上と切花長の伸長に有効であり、8～9月播種では採花開始時期が3～4週間程度早まる。			
4 5～7月に夏播きした展開葉数8枚の苗については、低温処理によるロゼット打破並びに生育・開花の促進効果は認められない。			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 播種期と開花日及び切花形質

(1年)

播種時期	開花日	切花長	側枝数	播種時期	開花日	切花長	側枝数
	月 日	cm			月 日	cm	
4月10日	7・15	35	12.0	10月10日	4・20	70	18.0
5月10日	8・10	34	14.1	11月10日	5・27	62	16.2
6月11日	3・8	55	15.8	12月11日	6・10	50	14.8
7月10日	3・12	52	15.0	1月10日	5・8	48	14.1
8月9日	3・20	48	16.5	2月10日	5・16	46	13.5
9月11日	4・12	65	17.0	3月10日	6・5	40	12.0

第2表 播種期と日長処理 (1年)

播種時期	日長処理	開花日	切花長	開花株率
月日		月日	cm	%
8・9	無処理	3・20	48	45
	電照	2・25	53	100
9・10	無処理	4・12	65	68
	電照	3・22	78	100
10・10	無処理	4・20	70	75
	電照	4・10	82	100
11・10	無処理	5・27	62	90
	電照	5・18	64	100

第3表 播種期と苗低温処理 (2年)

播種時期	処理方法	開花日	切花長	開花株率
月日		月日	cm	%
5・20	無処理	4・10	36	28
	2.5℃ 20日	4・5	41	40
	2.5℃ 20日 + 電照	3・18	52	100
6・10	無処理	4・22	48	62
	2.5℃ 20日	4・12	46	70
	2.5℃ 20日 + 電照	3・25	59	84
7・10	無処理	4・28	53	70
	2.5℃ 20日	4・16	54	78
	2.5℃ 20日 + 電照	3・28	60	91

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 3~5月出しの促成栽培は切花品質が優れ価格も高いので、切花栽培の経営改善資料として活用できる。
- 6~8月播種では株がロゼット化しやすいので、高温期の育苗は避ける。

VI 今後の研究上の問題点

開花側枝を利用した早出し栽培法の確立

VII 資料名

1~2年度 福岡県農業総合試験場 園芸研究所 花き花木試験成績書